



2021-2022 絵本作家養成ワークショップ

- ① つまでたってもかわらない
- ② あいがないければはじまらない
- ③ いいこづくりが本ではない
- ④ ろうやただしさもうあきた
- ⑤ くでもないけどただきれい
- ⑥ けるうけないさておいて
- ⑦ にかくそれでもやるしかない

絵本や児童文学を
書き（描き）たいと思っている人や
あるいは、すでに書き始めている人の中に
これまでの絵本・児童文学・童話講座に
飽きたらない方はいませんか
どんなふうにか、ということだけを
教わっても、作品は作れません
大切なのは
なにをか書るか
そして
なぜ書こうとしているかという
もっと自分自身の深いところにある
何かを見つけだし
それと向き合うことじゃないでしょうか

このワークショップでは何も教えません
必要なことはすべて
参加されたみなさんが
みなさん自身の手によって
持ち帰っていただきたいと思ひます

自分がなぜ書きたいのか
何を書こうとしているのか
独りだけで考えていないで
自分とは違ひ
けれども同じように真剣に
創作に打ちこんでいる大ぜいの人たちと
時には作者としてまた時には読者として
話し合ひ、ぶつかりあひながら
見つけていってください

ここには刺激と出合ひがあります

RESIDENT

□ レジデント (RESIDENT) とは何か

RESIDENT を英和辞典で引くと「居住者」と出ているはずですが、でも、このワークショップでいうところの「レジデント」とはこの意味ではありません。実はこの言葉、アメリカの若手作家のためのワークショップ(クラリオン)からの借用なのです。クラリオンでは参加者は毎日自由に作品を出し、さらにそれぞれを互いに討論しあいながら進めていく、円卓会議式ディスカッションの方法をとって進められますが、そのディスカッションを盛り上げながら進めていく、逆にいえば、殴り合いになるのを防ぐ以外、何の権限も持っていない世話役を、レジデントと呼んでいます。そこで当「あとさき塾」でも、話し合いのあとさきを考え、参加されたみなさんの意見を引きだし、作家としての腕と、読者としての眼を磨き上げるお手伝いをさせていただく者をこう呼ぶことにしました。よろしくお祈いします。

■ 土井章史 絵本ワークショップ DOI Akihumi

フリーの絵本編集者。これまで300冊ちかくの絵本の企画編集に係わる。東京吉祥寺に小さな絵本の専門店とギャラリー「トムズボックス」の代表。編著に「長新太 ナンセンスの地平線からやってきた」(河出書房新社)がある。

絵本にとっても期待しています。絵本にいろいろな可能性を予感しています。絵本というメディアは、もっともっと拡がるものと確信しています。編集者としてそんな絵本を一冊でも多く作りたいと思っています。絵本をもっともっと面白くしようと考えている方、こんな絵本もあるぞと提案してくれる方に来ていただきたい。そしていっしょに新しい絵本を作っていく、「あとさき塾」がそんな土壤になればと思っています。

■ 小野明 絵本ワークショップ ONO Akira

編集者・エディトリアルデザイナー。企画や編集、デザインで450冊以上の絵本作りに参加。共著として「絵本をよんでみる」「絵本をよみつづけてみる」(ともに五味太郎+小野明/平凡社ライブラリー)、「五味太郎のデザインワーク」(五味太郎+小野明/クレヨンハウス) 編著に「100人が感動した100冊の絵本」「絵本の作家たち1・2」(ともに別冊太陽/平凡社) などがある。

絵本の楽しみは「描く」と「読む」だけではない。「制作する」という楽しみも自分で言うのもなんだが、なかなかのものである。作家に絵本を描く側としての衝動と自負があるように、私たち編集者や装幀家にも、絵本を制作する側としての判断と欲望がある。たぶん、個々の技術はすでに熟している。気がかりなのは、それが心も体もまるごと抱え込んだ「表現」としてなかなか出版されないことである。絵本の魅力と実力についてみなさんとじっくり考え制作してみたい。

特別講座

□ 特別講座の目的

プロの作家になる、そしてプロの作家であり続けるとはどういうことなのか。このワークショップに参加されるみなさんにとって、これは作品を書く(描く)技術以上に気になることであると思います。そこで「あとさき塾」では、通常のワークショップ以外に、実際に児童文学・絵本の世界の第一線で活躍中の作家の方々のお話をお聞きする特別講座を設けました。この講座を通して、それぞれの先生方がどのようにして作品と接していらっしゃるのか、そこにあるこだわり、思い、悩み、自信などなど、本物のプロとしてやっていくためには何が必要なのかを感じ取っていただきたいと思います。

募集要項

ワークショップの会場は港区の外苑前にある「ギャラリーハウス MAYA2」です。

絵本ワークショップ募集人数

20名。

応募の資格

事前に提出いただいた作品によって、オーディションを行います。
年齢、経験は一切問いません。
プロの作家をめざしている人を望みます。

応募の方法

10月2日(土) 到着分まで。作品に申し込み用紙を添付のうえ、発送搬入または持参ください。応募封筒の宛先を「トムズボックスあとさき塾係」として下さい。

▽▽ 申込書

最終ページにあります。

▽▽ 作品郵送先

トムズボックス
〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-11-16
電話：03-5303-9737
E-mail：office@tomsbox.co.jp

参加料（絵本ワークショップ）

ワークショップ 18回 + 特別講座 6回の計 24回
96,000円
(教材費等の実費は含まれません)

応募作品

手作り絵本一冊。あるいはイラストなどの作品 5点。
(写真、立体、布などの作品形式は問いません。)
既に発表した作品でも結構です。
(作品の返却を希望される方は、返送用の封筒と切手または着払い伝票を、住所・氏名を記入したうえ、同封して下さい。返送用の封筒のない場合、作品はオーディション終了後、処分させていただきます。)

オーディション結果の通知

10月16日(土)までに、結果をお知らせいたします。

スケジュール

ワークショップは 19:00 から 22:00 まで。
特別講座は 14:30 から 16:30 まで。

ワークショップは月 2 回木曜日の実施で全 18 回、特別講座は全 6 回。
ただし、状況によっては、ワークショップの人数を分散させるために、月曜日を使う可能性もあります。



2021-2022

申込用紙

フリガナ ▼氏名	▼性別 男 女
▼生年月日・年齢 西曆 年 月 日生 歳	
フリガナ ▼現住所 ▼〒 — ▼E-mail @	
▼PHONE ()	▼FAX ()
▼勤務先・学校名	
▼PHONE ()	
▼あとさき塾へのひとことがありましたらお書き下さい。	